

農林水産商工常任委員会提出資料

(令和3年12月17日)

項 目	ページ
1 鳥取県農業生産1千億円達成プランの改訂について 【農林水産政策課】……………	2
2 国内における高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱の発生状況と本県の取組 について 【畜産課】……………	4

農 林 水 産 部

鳥取県農業生産1千億円達成プランの改訂について

令和3年12月17日
農林水産政策課

平成30年3月に策定した、「鳥取県農業生産1千億円達成プラン」（以下「プラン」という。）が3年経過したことから、これまでの実施状況や農業情勢を巡る環境の変化等を踏まえた改訂案を作成しましたので、概要を報告します。

1 プラン改訂の経過

7月8日（木）	第1回食のみやこ・やらいや農林水産業プロジェクト会議（書面協議） メンバー：農林水産業団体の長、商工業団体の長 等
8月19日（木）	J A関係者への改訂方針を意見交換
10月13～15日	3 J Aと改訂内容について個別に意見交換
11月4日（木）	農業士理事会
11月9日（火）	第2回食のみやこ・やらいや農林水産業プロジェクト会議
11月16日（火）	農政懇談会
12月8日（水）	農業再生協議会総会

- ・プランの目標達成状況は、園芸や畜産など生産関係は概ね計画どおりに進んでいるものが多いが、一方で担い手の育成や農地集積などがやや遅れ気味となっている状況を共有した。
- ・将来的な農業生産1千億円達成という大きな目標達成に向けて、担い手育成、農業のスマート化等による生産振興を推進し、当面の目標としてまず900億円達成に向け農業者、農業団体、関係者が一丸となって取り組んでいくことを改めて確認した。

2 プラン改訂の概要

（1）基本目標・基本方針・重点分野の見直し

農業情勢の変化に応じ、重点分野を1項目追加（計14項目）にするとともに一部を見直した。

基本目標・基本方針	重点分野
I 仲間が増える	
10年後を支える多様な担い手が活躍できる環境を整えます	①担い手の育成・確保 ②農業分野における働き方改革・デジタル社会の推進
II 所得が増える	
産地力をアップし、農業所得を高めます	③水田農業の収益性向上（稲作を中心として） ④園芸産地の基盤強化 ⑤収益性の高い畜産経営の実現 ⑥新たな国際貿易協定等を踏まえた競争力強化と経営安定
「食のみやこ鳥取県」の魅力を国内外に発信します	⑦農林水産物・加工品の輸出拡大 ⑧6次産業化・農商工連携の推進、新商品の開発 ⑨食のみやこ鳥取ブランドの発信
III 地域農業が進む	
地域の農業を元気にし、農とともに生きる鳥取県を実現します	⑩中山間地域など地域業農の推進 ⑪農業生産基盤の次世代に向けた整備と保全 ⑫農村地域の防災・減災対策の強化 ⑬農とともに生きる鳥取県 ⑭環境に配慮した農業の推進

（2）指標項目、目標数値の見直し

①主な新設指標項目

指標項目	目標値（2025年）	直近実績（2020年）
星空舞の作付面積	3,000ha	1,036ha
「鳥取和牛」の認知度	30%	4.8%
田んぼダムの取組面積	500ha	58ha
年間輸出額（22国・地域）	33.1億円	22.8億円

②主な目標数値の見直し内容

指標項目	現状の目標値	見直し後の目標値	直近実績（2020年）
認定農業者数等	1,500人・法人	1,560人・法人	1,533人・法人
家族経営協定締結件数	370組	400組	356組
鳥取型低コストハウス導入面積	38ha	48ha	34.3ha
和牛繁殖雌牛頭数	5,000頭	7,000頭	4,542頭
和子牛生産頭数	4,000頭	4,200頭	3,586頭
ため池ハザードマップの整備	85箇所	277箇所	161箇所

（3）産地目標の設定

農業者、関係者にプラン目標をより身近に感じていただき、農業産出額目標達成に向けて取り組んでいけるよう主要品目の産地目標を補完的な目標として設定した。

品目	産地・地域（現状 R2⇒目標 R5）
梨	中央〔東郷他〕（23.4億円⇒25.4億円）、いなば〔八頭他〕（7.8億円⇒8億円） 西部〔大山他〕（7.1億円⇒7.2億円）
柿	いなば〔八頭他〕（2.9億円⇒3億円）
白ネギ	西部〔米子他〕（21.4億円⇒24.0億円）
すいか	北栄（20.1億円⇒22億円）、倉吉（10.1億円⇒16億円）
ブロッコリー	西部〔大山他〕（10.5億円⇒13.4億円）、中央〔琴浦他〕（4.8億円⇒6億円）
らっきょう	福部（9.3億円⇒10億円）、北栄（5.5億円⇒6.2億円）
トマト・ミニトマト	中央〔琴浦他〕（4.2億円⇒4.5億円）、日南（1.8億円⇒2.0億円）
長芋	北栄（3.9億円⇒4.5億円）
アスパラガス	いなば〔八頭他〕（0.6億円⇒1億円）
芝	琴浦、大山（14億円⇒16億円）

（4）主な追加要素

重点分野別の具体的取組の中に農業情勢の変化等を踏まえて以下のような要素を追加した。

重点分野	主な追加要素
①担い手の育成・確保	・農業経営相談所(仮称:農業経営支援センター)の支援 ・産地主体型就農支援モデルの取組
②農業分野における働き方改革・デジタル社会の推進	・スマート農業導入指針に基づく社会実装
③水田農業の収益性向上（稲作を中心として）	・県オリジナル米品種「星空舞」の振興 ・鳥取県農産物種子条例の制定
④園芸産地の基盤強化	・果樹産地への気象災害対策支援 ・県オリジナルいちご品種「とっておき」の振興
⑤収益性の高い畜産経営の実現	・和牛の保護および振興に関する条例の制定 ・家畜伝染病の発生防止
⑥新たな国際貿易協定等を踏まえた競争力強化と経営安定	・日米貿易協定、RCEPなどの動向
⑦農林水産物・加工品の輸出拡大	・鳥取和牛などの新規市場開拓
⑧6次産業化・農商工連携の推進、新商品の開発	・6次産業化支援の充実
⑨食のみやこ鳥取ブランドの発信	・新しい生活様式に対応した販路開拓
⑩中山間地域など地域農業の推進	・関係人口の増加などに向けた取組
⑪農業生産基盤の次世代に向けた整備と保全	・スマート農業導入に必要な基盤整備
⑫農村地域の防災・減災対策の強化	・ため池の調査、点検、ハザードマップ整備等 ・田んぼダムの推進
⑬農とともに生きる鳥取県	・コロナ禍における持続可能な地域
⑭環境に配慮した農業の推進	・みどりの食料システム戦略、脱炭素の動き

3 今後の取組等

- ・改訂プランをホームページ等で広く公表し、生産者等への周知を図る。
- ・プランの目標達成に向け、農業団体や市町村等、関係機関と連携して生産体制、販売体制などの強化に向け、各種施策へ取り組んでいく。

国内における高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱の発生状況と本県の取組について

令和3年12月17日
畜産課
緑豊かな自然課

国内で発生が継続している高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱の発生状況と本県の取組について報告します。

1 高病原性鳥インフルエンザの発生状況

(1) 養鶏場等における発生状況(R3.12.13現在)

	発生地	鶏種	発生日	飼育羽数	防疫措置完了※	血清型
1	秋田県横手市	採卵鶏	R3.11.10	144,539羽	R3.11.20	H5N8
2	鹿児島県出水市	採卵鶏	R3.11.13	38,500羽	R3.11.16	H5N1
3	鹿児島県出水市	採卵鶏	R3.11.15	9,200羽	R3.11.16	H5N8
4	兵庫県姫路市	採卵鶏	R3.11.17	156,459羽	R3.11.22	H5N1
5	熊本県南関町	肉用鶏	R3.12.3	66,225羽	R3.12.5	H5N1
6	千葉県市川市	あひる	R3.12.5	340羽	R3.12.5	H5N1
7	埼玉県美里町	採卵鶏	R3.12.7	15,692羽	R3.12.11	H5N1
8	広島県福山市	採卵鶏	R3.12.7	30,569羽	R3.12.12	H5N1
9	青森県三戸町	肉用種鶏	R3.12.12	7,000羽	作業中	H5
	合計			468,524羽		

※防疫措置完了とは、殺処分、死体の処理、汚染物品の処分、鶏舎の消毒が全て終了した状態

(2) 野鳥等における発生状況(R3.12.13現在)

	発生地	材料	採材日	重点区域指定日	血清型
1	鹿児島県出水市	環境水	R3.11.8	R3.11.11	H5
2	宮崎県宮崎市	野鳥の糞便	R3.11.9	R3.11.16	H5N1
3	鹿児島県出水市	ナベヅル	R3.11.19	R3.11.21	H5N8
4,5	鹿児島県出水市	環境水2検体	R3.11.22	R3.11.29	H5N8
6	鹿児島県出水市	環境水	R3.11.29	R3.12.6	H5N8
7	鳥取県鳥取市 (気高町日光地区)	環境水	R3.12.1	R3.12.8	H5
8	鹿児島県出水市	環境水	R3.12.6	R3.12.13	H5N8

(3) 本県の対応状況

- 秋田県、鹿児島県での発生を受け、11月17日(水)に全庁横断の鳥インフルエンザ対策チームを立ち上げ、サーベイランスや予防対策を強化した。
- 11月末までに全78養鶏農場に消石灰と消毒薬を緊急配布した。
- 家畜保健衛生所により養鶏農場の防鳥ネットや消毒状況などの点検を実施した。
- 鳥取市での高病原性鳥インフルエンザウイルスの検出により、環境省が採取地点から半径10km圏内を野鳥監視重点区域に指定した。野鳥の監視を野鳥監視重点区域は毎日、その他の地域は隔日に強化している(現在、県独自の監視ステージは最高レベルのステージ3)。
- 中・西部でも糞便等調査を行っており高病原性鳥インフルエンザウイルスは検出されていない。引き続き糞便等調査を実施する。
- 野鳥関係団体、関係機関等と連携を図り、正確な情報提供を実施している。その他愛玩鳥(家きんを除く)飼育者への情報提供を実施している。
- 県内での発生に備え、各総合事務所単位で防疫演習を実施した。また全庁で動画による動員者研修を実施した(東部11/10、中部11/17、西部11/18)。

(4) 今後の予定

- 野鳥の目視確認に加え、野鳥の糞便等検査によるサーベイランスを継続する。
- 年末までに家畜保健衛生所が再度養鶏農場の野生動物対策や消毒状況を点検する。

2 豚熱の発生状況

(1) 養豚場における発生状況 (R3. 4. 1~R3. 12. 13)

	発生地	畜種	発生日	飼育頭数	防疫措置完了※	その他
1	群馬県前橋市	豚	R3. 4. 2	9,970頭	R3. 4. 16	(関連1農場含)
2	三重県津市	豚	R3. 4. 14	10,000頭	R3. 4. 23	
3	栃木県那須塩原市	豚	R3. 4. 17	17,266頭	R3. 5. 17	
4	栃木県那須塩原市	豚	R3. 4. 17	22,096頭	R3. 5. 17	
5	山梨県中央市	豚	R3. 5. 11	2,523頭	R3. 5. 18	
6	神奈川県相模原市	豚	R3. 7. 8	4,328頭	R3. 7. 21	(関連1農場含)
7	山梨県道志市	豚	R3. 8. 6	1,700頭	R3. 8. 11	
8	群馬県桐生市	豚	R3. 8. 7	5,000頭	R3. 8. 26	
9	滋賀県近江八幡市	豚	R3. 10. 6	1,400頭	R3. 10. 10	
10	群馬県前橋市	豚	R3. 10. 19	3,940頭	R3. 11. 1	(関連1農場含)
11	群馬県桐生市	豚	R3. 11. 26	2,632頭	R3. 12. 3	
12	宮城県大河原町	豚	R3. 12. 12	11,700頭	作業中	(関連1農場含)
	合計			92,555頭		

※防疫措置完了とは、殺処分、死体の処理、汚染物品の処分、豚舎の消毒が全て終了した状態

(2) 野生いのししの感染状況 (R3. 12. 1 現在)

25都府県で4,195頭の感染を確認した。

宮城県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

(3) 本県の対応状況

- 令和3年4月5日から県内飼養豚等全頭へ豚熱ワクチンを一斉接種(約5万頭)し、その後繁殖豚への補強接種や生まれてくる子豚、導入豚へ追加接種を実施している(5/6~11月末まで約6万6千頭)。
- 県職員獣医師に加え民間獣医師(知事認定獣医師)によるワクチン接種を開始(8/16~)し、ワクチン接種体制を強化している。
- 養豚農場の野生いのしし等侵入防止対策の徹底、長靴や衣服の交換、車両消毒及び早期通報の徹底等を家畜保健衛生所が指導した。
- 県内の野生いのししの捕獲及び兵庫県境付近の野生いのししのモニタリングを強化している。
- 県東部の兵庫県境付近に豚熱経口ワクチンを散布した(10月~12月に2回実施、計1万個)。
- 狩猟者、登山者等へ衛生対策についてチラシ配布や県ホームページで注意喚起を実施している。
- 中国地方知事会有害鳥獣対策部会や兵庫・岡山・鳥取3県鳥獣被害対策会議等による連携した対策と情報共有を実施している。

(4) 今後の予定

- 引き続き家畜保健衛生所が養豚農場の野生動物侵入防止対策の点検と指導を実施する。
- 養豚場の豚の豚熱抗体保有状況を分析し、より高い抗体価が得られる適期に豚熱ワクチン接種を行い、発生防止に努める。